

教材紹介カード		教科等	国語・図工・自立
教材名	スイミーの海	部門	視覚障害教育部門
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の世界のイメージをつかむ。 ・具体物の操作を通して、語彙を広げる。 ・手指の操作性を高める。 <p>小学2年生の国語の教科書にレオ・レオ二作の「スイミー」が取り上げられている。「スイミー」の原本は絵本であり、「～のような」「～みたいな」という文中の表現を理解するにあたって、挿絵が重要な役割を果たしている。しかしながら、点字使用の児童には挿絵を手掛かりにすることはできず、具体物に触れたり、物を操作したりしながら学ぶことで、物語の世界への理解を深めるとともに語彙や表現の幅を広げたいと考えた。</p>		
写真	 <p>赤い魚を一口で飲み込める</p>  <p>触りながら数や量を考え、自分の思う魚の形を形成</p>  <p>自立活動で、線や形を書く練習をしてできたものをスタンプにして海草をの林を表現した。</p>  <p>スライムを使った「ゼリーみたいなクラゲ」</p>		
指導内容 ・ 指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の物語に合わせて操作しながら読み取ったり、自立活動や図工の時間を活用して制作したりしながら、「スイミーの海」の世界観を児童と一緒に作った。 ・文章中の言葉を手掛かりに、大きな魚を追い出せるほどの数の魚とはどのくらいの数なのか、実際に物を並べて比較しながら考えたり、「岩の影」とはどこなのか魚を操作して考えたりして、言葉の表面的な意味だけでなく、実際のイメージにつながるようにした。 ・海面付近と海底の明るさの違いなどにも気付き、色のイメージの理解にもつながられた。 		
特徴 ・ 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が操作できること、触れて理解できることを大切にした。 ・醤油入れで赤い魚を作り、マグネットを貼り付け、魚の形を形成しやすくした。 ・「ゼリーみたいなクラゲ」にスライムを活用した。 ・「大きなマグロがひと口で飲み込んだ」が理解できるよう、マグロを動かすと赤い魚が飲み込めるようにした。 ・「たくさんの赤い魚たち」がどのくらいいるのか、自分で考えられるよう、児童の希望する数だけ増やせるようにした（150匹） 		
材料・製作上のポイント	<p>材料：醤油入れ、絵の具、ゴム手袋、空き箱、スライム、ペットボトル、新聞紙、など 製作上のポイント：触れて分かること、操作できること、「スイミー」の世界観が広がること、児童が作れることを大切にした。</p>		
製作年月日	令和 6年6月	教材作成者	村上 庸子